

福竜丸だより

都立・第五福竜丸展示館ニュース



発行 (財) 第五福竜丸平和協会
〒136-0081 東京都江東区
夢の島3-2
都立第五福竜丸展示館内
電話 03-3521-8494

最高裁、厚生大臣の上告を棄却

山田 拓民

七月十八日、最高裁は厚生大臣が上告していた『長崎原爆松谷訴訟』で、「本件上告を棄却する」という判決を行い、ここに十二年に及ぶこの裁判は決着しました。

『長崎原爆松谷訴訟』とは、三歳の時に爆心地から二・四五キロはなれた長崎の稲佐町で被爆した松谷英子さんが、被爆時に頭に頭蓋骨陥没の重傷を負い、それがもとで右半身不自由な身体になって、今なお病院と縁が切れないのは原爆によるものだとして厚生大臣に原爆症としての認定を求めたところ、厚生大臣がこれを却下したため、一九八八年九月、厚生大臣を被告に、その却下処分を取り消しを求めて長崎地裁に起こした裁判なのです。

一九九三年五月、長崎地裁は松谷さんの主張を認めて、厚生大臣の却下処分を取り消す判決を下しました。ただ厚生大臣はこの判決を不服として控訴、裁判は福岡高裁へ移りました。そして四年後の一九九七年十一月、福岡高裁も厚生大臣の控訴を斥け、却下処分の取り消しを命じたのです。一度ならず二度までも、その処分の誤りが司法によって指摘されたら、自らのあり方をきびしく反省し、軌道を修正するのが行政のあるべき姿だと私は思い

ます。しかし、厚生大臣は上告し、裁判は最高裁へと移ったのです。厚生大臣は、なぜこうも松谷英子さんの原爆症認定拒否にこだわったのでしょうか。それは、原爆症と認められるかどうか、単に一人の被爆者を救済するかどうかの問題ではなかったからに違いありません。厚生大臣は、最高裁への「上告理由書」の中で、こう述べています。『第二次世界大戦により日本国民が甚大な被害を被ったことは、公知の事実である。しかし、戦時という国の存亡にかかわる非常事態においては、国民のすべてが、多かれ少なかれ、その生命・身体・財産の犠牲を堪え忍ぶことを余儀なくされていたのであって、これらの犠牲は、いずれも、戦争犠牲または戦争損害として、国民が等しく受忍しなければならぬ性質のものである。』(上告理由書11ページ)

厚生大臣は、本来戦争による被害は国民が受忍(うけしのん)すべきものであるが、原爆の場合は放射線という特殊性があるから特別に救済策を講じているのであって、その適用にきびしい枠を設けるのが当然だ、というのです。きびしい枠―事実、厚生大臣によって原爆症と認定され、国が医療費を負担している被爆者は、被爆者全体の〇・七%にすぎません。一方、原爆の放射線のせいではないかとして厚生省が指定している疾病にかかっている被爆者は、被爆者全体の八十三%にも達しているのに！

被爆者が地獄の中で殺され、生き延びた者もお苦しみを背負っているのは、アメリカが原爆を投下したからであり、どのような口実を並べ述べたとしてもアメリカの行為を免罪することはできません。と同時に、かつて最高裁も判決の中で述べたように、原爆の被害は「避けられなかったもの」であり、日本政府の責任も明らかです。その政府は、なぜ、原爆症の被爆者を全体の〇・七%に留めるといふ原爆被害の過少評価に執念を燃やすのか―その背景に「核の傘」があり、核兵器の「究極的廃絶」という核兵器容認政策があるからではないでしょうか。

最高裁は、松谷英子さんの救済を厚生大臣に命じました。しかし、それだけでは不十分です。私たちは、今こそ、日本政府に戦争の責任を自覚させ、原爆の被害への国としての償いを実現させるとともに、日本を核兵器廃絶の先頭に立たせるとりくみの第一歩を踏み出すようではありませんか。

(長崎被災協事務局長)

西宮市で「原爆展」

兵庫県西宮市で七月十九日から二十三日まで恒例の「原爆展」が開かれ、平和協会も後援、第五福竜丸の写真パネル、文献資料などを貸し出し展示された。市と原水爆禁止西宮市協議会、教育委員会、親子劇場などが主催したもので十数年続いている伝統ある展示会とあって、今年も多数の市民が訪れ、被爆資料に見入り千羽鶴を折り、感想文、署名、募金に協力し、核兵器廃絶への願いを新たに示した。

原爆資料館で「死の灰」展示

広島原爆資料館東館で放射線が人体に与える影響をテーマにし



第五福竜丸の激励受け出発

た企画展「原爆―見えない放射線の被害」が七月十九日から始まった。平和協会から初めて「死の灰」を出品展示された。

黒い雨の痕跡が残る白壁が、残留放射線を示すフィルムとともに展示されるなど放射線被害の実態がよく理解される。なぜ放射線は人体に悪いのか? 「どんな病気が増えたのか?」放射線の影響は子孫にもおよぶのか? など設問にも用意されている。

放射線量を実際に計ったり、紙、布、鉛などで放射線がどのように入ってくるかを調べる実験コーナーもある。十月十六日まで。

自転車隊広島へ出発―熱い風をともに伝えよう

七月十九日早朝、「東京ピースサイクル二〇〇〇」の出発が第五福竜丸展示館前でひらかれた。各地を網の目で結び、輪を広げ、八月五日広島、八月八日長崎、そして七月末青森県六ヶ村を目指す。出発式は六名の青年による銀輪隊で、自転車も普段通勤に使っているという自転車、思い思いのTシャツに「ピースサイクル」のたすきがけという質朴さだが気宇壮大、展示館と船とエンジンの激励

を受け日比谷にむかった。昨夜まで沖繩にいたという青年も「ジュゴンを守る」のTシャツを汗びっしょりにして愛車にとび乗った。

外務省、科学技術庁、都庁に抗議文、要請書を渡し、各地で仲間と合流、翌日は神奈川県と厚木基地包囲行動に結果する。沿道に手をふってさわやかに、「熱い風をともに伝えよう、平和の思い」がモットーだ。

焼津市「平和のための戦争展」

焼津文化センターで、八月十六日から十八日まで、焼津市、同教育委員会が後援して「平和のための戦争展」が開かれることになった。市が予算も出して本格的な「戦争展」が開かれるのは初めてで、平和委員会、歴教協など広範囲な市民団体で作る実行委員会は企画立案と準備に追われている。若い人たちにどう問いつけ、受け止められるかがかかると展示

テーマも①戦争と焼津の漁船(徴用船)②水爆実験と焼津漁船③戦争と市民のくらしをテーマに実物資料の展示をメインにし、「平和

子ども映画会」も設けられ映画『第五福竜丸』も上映されることとなった。さかなの街を襲った不幸な傷跡の主題にそい、日中、太平洋戦争の中、焼津の漁船のほとんどが徴用船として戦場におもむき、中大型のかつお、マグロ漁船九〇隻余のうち還ってきた船はわずかに十数隻の実相も研究者の詳細な報告資料から再現され、海の幸を求めた焼津の漁業の壊滅状況がプロローグとしてまず明らかにされる。アメリカの水爆実験による第五福竜丸の被災を中心とする焼津及び県下の十七隻の被災船の実相も地道な調査活動をもとに明かにされる。

第五福竜丸被災そのものも新しい切り口でと、漁労長見崎吉男さんの証言を中心に構成し、被災後最大の注意と沈着さをもって焼津に向かい十四日曜日早朝焼津港にいたる経過と、そこに示された知恵と判断力、直ちに病院にいき翌朝一番列車で重症の二人の乗組員を東大病院へ送った対応など克明に実証するという。また、入院した乗組員に寄せられた焼津市民、小中高生の交流、激励も当時の手紙、文集、学校新聞などで明らかにする。

平和協会からも天測日誌、焼津無線局の受信伝票などいくつもの資料を貸し出し展示する。

核兵器と戦争のない二一世紀をめざして 学び、行動する東京の高校生

沖村 民雄

暑い夏を迎えた七月二十日、東京都内の各地で平和ゼミナールの活動に参加している高校生や「世界の子供の平和像を東京につくる会」など約四〇人が参加して、第五福竜丸見学と交流のつどいが開かれました。

第五福竜丸展示館を見学したあ



大石又七さんの話をきく東京の高校生

と、来日中のキャミカンダンさんから挨拶をいただきました。キャミカンさんは、一九九五年にアメリカの子供たちが核兵器廃絶を願って「子供達の平和像」を建設したときのアドバイザーです。キャミカンさんは「私の州は原爆を作ったところですよ。私は、広島や長崎の原爆被害やビキニ事件のことを知って、とても悲しい思いになります。核兵器廃絶のためには多くの人々の力が必要です。皆さんもがんばってください」と高校生を励ました。

つづいて、三尾喬英さんが第五福竜丸の前に「ビキニ事件は核兵器によって人類が全滅するかもしれない」という問題をつきつけた。二一世紀を迎える私たちは核兵器をなくさなければならぬ。人類と核兵器は共存できない。この船は原水爆禁止運動のシンボルであり、核兵器廃絶をめざす人々の鮮烈な願いがこめられている。この

船にさわって、この船の願いを受け止めてほしい」と高校生に訴えました。

そして元乗組員の大石又七さんからお話を伺いました。大石さんは「一九五四年三月一日未明、夕焼けのような光が走った。茫然と空をながめ、最初は地球に異変が起ったと思った。七・八分後に下から突き上げるような音でみんなデッキにふせた」「それから死の灰をあび、夜になってめまいや下痢、頭痛がでてきた。二日後から水ぶくれや斑点がでてきた」とビキニ事件の様子を語り、「この事件のことがまだまだ知られていない。これでは忘れられてしまう」と思い、永く伝えるものが必要だと考えた。核兵器が使われると人類だけでなく地球の生物すべてが被害を受ける。その象徴がビキニ事件で汚染されたマグロだと考え、マグロ塚を建てようと思っ

た。多くの人に呼びかけて三年かかりました」と語りました。その後、高校生たちは夢の島にある体育館の会議室で交流会を行ない、今日の感想や今後の取り組みについて語り合いました。「人類だけではなく、マグロも被害を

受けた。核兵器をなくさねばならないと思った」「第五福竜丸を前に見たときはよくわからずボロい船だと思ったけど、今日は死の灰を浴びた怖いものだと実感した」「教科書でならったことがあったけど、実際にみて、いろいろな話を聞いて第五福竜丸のことがよくわかった」「ビキニ事件が原水爆禁止運動の発端になった大きな出来事だったということがよくわかった」と感想をのべていました。

東京の高校生たちは、この夏も広島に行き、全国高校生平和集会や原水爆禁止世界大会に参加し、多くのことを学ぼうとしています。「核兵器と戦争のない二一世紀を」という子供たちの願いをこめた「世界の子供の平和像」をつくる活動も、応募作品三三〇点からみんなの投票でデザインを選考し決定するところまで進んできました。「もっともっとと学んでみんなに伝えて広がっていくことが自分たちの役割だ」と確認しあいながら、この日も有楽町に出て、マリオン前で募金活動を行いました。二一世紀を担う子供たちが確実に成長しています。

(桐朋高校教諭)

各国の高校生もあいついで来館

ワシントンのシドウェル・フレンズ・ハイスクール

七月二十一日、アメリカワシントンD.C.のシドウェル・フレンズ・スクールなど三校の高校生七名が展示館を訪問、日本の大学生スタッフとともに一時間余、核と人間などをテーマに熱心なディスカッションを行った。

今年で十六年目を迎えた日米文化センターの高校生交流運動のひとつで、七月十一日来日、ホームステイを中心に一カ月近く滞在し、東京、京都、広島、富山県利賀村、井波村など各地を訪問し、



アメリカのシドウェル・フレンズの高校生

高校生・青年たちと交流、「世界とどのような関わりを持って生きていくのか」を考え、友情を育むという。

第五福竜丸展示館は、「日本に触れる東京プログラム」のひとつで、一週間滞在する広島プログラムの事前学習として「最重要行事」とか。国際基督教大学、学習院大学の通訳スタッフとともに船首下のテーブルを囲んで「原爆を学校でお互いどう教えられてきたか」などつっこんだ議論などもおこなった。

「ビキニ、ロンゲラップの島民の被害がこんなにも大きいこと、太平洋での核実験のすさまじさ、世界各地に核実験、核の被害者がいるなど

日本語スピーチコンテストの高校生も

七月二十三日、猛烈な暑さのなかを、アメリカ、ロシア、中国、ブラジルなど十二か国の高校生が日本の高校生らと訪れ、なごやかに語り合った。

国際文化フォーラム、国際交流基金などが協賛する「第六回海外高校生による日本語スピーチコンテスト」に参加する高校生で、コ

全く知らなかった、第五福竜丸の人たちのその後の生活、考えももっと知りたい」「この小さなミュージアムは人間を語っている。人間がいる。被害をこうむった人だけではない。船を守り、核のない未来へ運動している人々の熱意が感じられた」など、口々に感想をのべた。

東京プログラムでは、東京朝鮮中高級学校、フリースクール、そろばん塾、荒船座にお菓子の虎屋、靖国神社、昭和館なども訪ねる。

「地球ワークショップ」として三泊四日、茨城県御前山青年旅行村で日本高校生とレクエーションと日米教育問題の議論をするという。広島では被爆者の体験を聞き平和祈念式典にも一緒に参加し灯籠流しも行なう。京都の町並みを歩き寺院の研修も楽しみ、八月一日帰国する。

コンテストを前に開かれた。異文化交流プログラム」の都内見学の 일환として訪れたもの。

はじめにみる「大きな船」に目をみはり、船尾の床に座り込み、スタッフが用意した解説書のコピーに目をやりながら熱心に説明を聞いた。「目の位置を低くしてやさしい気持ちになって、船の願

いをそっと聞いてください。手を触れて、その願いを心にとめてください」のことは、顔を見合わせほほえみ、ハードなスケジュールのなかの「忘れないひととき」を持った。

「二一世紀を核兵器のない平和な世紀にできるでしょうか」素直な疑問に、参加した日本の高校生がこの説明はまかせてとばかり語りかけたり、ともに「死の灰」を恐る恐るのぞきこむなど国際的交流。

七月二十五日、赤坂の国際会議場で本番のコンテスト、十五か国十五名の高校生が思い思いのテーマで語り、その獨創性、具体性、表現力などを競うという。カナダのクリスティーンさん(十九歳)のスピーチは「日本の若者―新人類」、アメリカのジュリエットさん(十六歳)は「女性のなかにかくされている問題」とか。態度も、会場とのコミュニケーションも重要な審査対象でみんな真剣に実習中。第五福竜丸の印象は彼女らの表現力にどんな良い影響を与えたのだろうか。

都内の各地を二日間見学、居合術体験、パソコン教室、花火見学もあり、コンテスト後は信州松本、美ヶ原高原にハイキング、キャンプもして、八月二日に各国に帰る。